

平成 30 年度

飯綱町教育委員会事務の管理及び
執行状況の点検及び評価の報告書



飯綱町教育委員会



1、趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）第 26 条の規定に基づき、教育に関する課題や取り組みの方向性を明らかにし、効果的な教育行政の推進を図るとともに、町民への説明責任を果たすため、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検並びに評価（以下「点検・評価」という。）を行い教育に関し学識経験を有する者の知見を活用し、その結果に関する報告書を議会に提出し公表します。

2、点検・評価の対象

令和元年度の点検評価は、前年度である平成 30 年度分の事業実績を対象としました。

対象範囲は、地教行法第 23 条で「教育委員会の職務権限」として規定されている事務をはじめ、本教育委員会が所管するすべての事業で、このうち、本教育委員会作成の「平成 30 年度飯綱町教育運営方針」における「方針と目標」の具体的実施事業の中から主なものを中心に対象としています。

3、点検・評価の方法

- (1) 平成 30 年度飯綱町教育運営方針に基づき実施された事業の中から主なものを対象に点検及び評価を行いました。
- (2) 教育に関して学識経験を有する外部者からの総合的な意見を知見として掲載しました。
- (3) 点検・評価の結果については、定例教育委員会において審議しました。

※ 点検・評価の基準は次のとおりです。

〈評価の基準〉

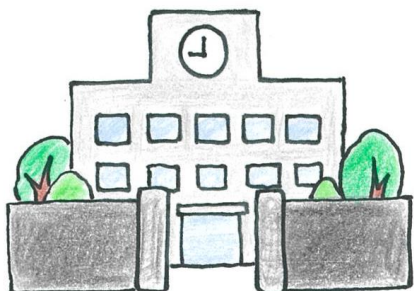
- A・・・目標以上の成果
- B・・・概ね目標の成果
- C・・・課題が残った

地方教育行政の組織及び運営に関する法律 ～抜粋～

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。



方針と目標

方針1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

目標 生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう

- 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - (1) 知・徳・体の調和がとれ、生きる力を育成する教育の推進
 - (2) スムーズな統合と新小学校の礎づくり
 - (3) 子どもの学びの機会と質の向上の保障…奨学資金貸付制度、就学援助
 - (4) だれにでも気持ちよくあいさつができる子どもの育成…子ども安全見守り隊
 - (5) 保小連携、小中連携、小学校相互の連携…交流学习、交流行事
 - (6) 教職員の力量向上と働き方改革…研修の場の充実、非違行為根絶
教職員の多忙化・負担軽減
- 2 グローバル化社会への対応
 - (1) ICTの活用
 - (2) アクティブ・ラーニングの実践
 - (3) 次期学習指導要領への的確な対応（英語力・コミュニケーション力の向上）
- 3 ふるさとを愛する心が育つ教育の推進
 - (1) 体験型学習（自然・農業・食育・歴史文化など）やキャリア教育の充実
- 4 学校・家庭・地域の連携と協働の推進
 - (1) 地域人材バンク（おらほの学校応援団）の整備と飯綱町コミュニティスクール
 - (2) 健康づくり週間・手づくり弁当の日、ノーメディアデーの推進
 - (3) 家庭学習の手引きの活用

方針2 子育て・子育て環境の充実

目標 豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう

- 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり
 - (1) 乳幼児期からの基本的な生活習慣の取得と心身の健康の促進…すこやか教室
 - (2) 未満児・障がい児保育の充実…保育園、はぐくみサポートセンター事業
 - (3) 子ども読書活動（ファースト・セカンド・サードブック）による情操教育の推進
 - (4) 安全・安心な放課後児童クラブの運営
 - (5) 児童虐待の未然防止と早期の対応…関係機関との連携
- 2 楽しく子どもを育てられる環境づくり
 - (1) 子育て支援センター事業の充実
 - (2) ファミリー・サポート・センター事業の充実
- 3 子育てをしている女性への支援
 - (1) 子育て世代の就労支援…飯綱ワークセンター事業の充実
 - (2) 病後児保育事業による子育て支援の充実

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

目標 健全な心と体を育てよう

1 多様な活動機会の創出

- (1) スポーツ活動や芸術文化活動の機会の創出…部活動の広域化、アスリートなどの育成
- (2) 地域団体が企画運営するスポーツ・芸術文化活動への支援
- (3) スポーツ施設の充実…B&G 海洋センター・学校施設の開放

2 文化の保存・継承・活用

- (1) 豊かな農産物や食文化への理解の促進…食育活動、地域授業の充実
- (2) 文化財の保存、継承、活用の充実…歴史ふれあい館の機能充実と活用
- (3) 文化遺産や芸術・文化に触れ、ふるさと愛を育む

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

目標 学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう

1 多様な学習機会の創出

- (1) 生涯学習（講座・教室）の充実…講座・講演会の充実、指導者の養成・確保
中学校講堂の開放
- (2) 生涯学習の成果を生かす機会（発表会）の実現
- (3) 図書館機能の充実…中学校図書館、公民館図書室

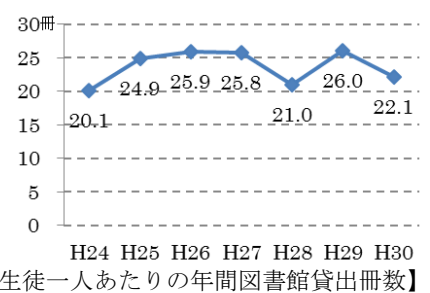
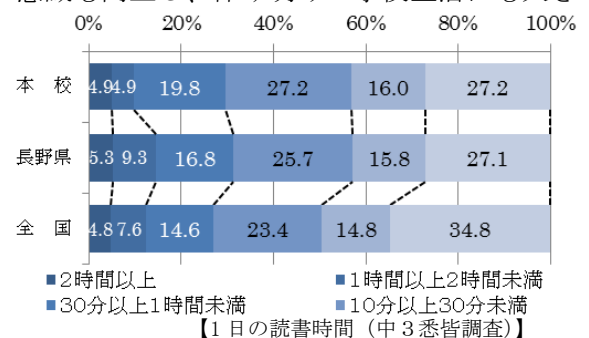
2 生涯学習拠点の充実

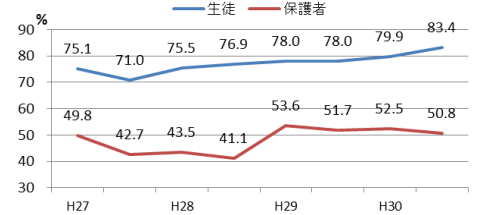
- (1) 地域コミュニティ（公民館活動）の活性化…公民館活動への支援
- (2) 地域学習の充実




4、点検・評価の結果



方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 (1) 知・徳・体の調和がとれ、生きる力を育成する教育の推進
主な事業(活動)	①ドリルの時間(小学校) ②全校体育での体力作り(小学校) ③授業の3観点「ねらい、めりはり、みとどけ」実施(小学校) ④家庭教育学級でのコンサート(小学校) ⑤休みの日の過ごし方について(小学校) ⑥朝読書の実施(中学校) ⑦学習の理解度(中学校) ⑧栄養価を考慮した手づくりで安全・安心な給食(学校給食係)
評価	①A ②B ③A ④A ⑤B ⑥B ⑦B ⑧A
成果と課題	<p>①週日課にドリルの時間を位置づけ、個別な課題の取り組みと個別の支援の時間として有効に利用できました。また、全校共通の「静」の時間として、落ち着いて取り組むことができました。豊かな情操や基礎学力の定着に役立つため今後も継続していきたい。</p> <p>②小学校統合による体力低下の懸念からマラソンを柱に行いましたが、継続的に取り組むには方法や環境づくりの工夫が必要で、今後はマラソンにこだわらず楽しみながら継続的に取り組めるようなことを考えていきたい。</p> <p>③各授業において、学習問題(この時間に考えること)を明確にして授業を行うことを意識づけることができました。</p> <p>④アフリカンミュージックリズムコンサートを聞くことでタンザニアの皆さんとも交流でき、またタンザニアの友だちのために児童会で空き缶集めを行いタンザニアへ寄付を行うことで、思いやりの心と奉仕の心を養うことができました。</p> <p>⑤夏休み等長期休業中の1日の過ごし方や計画について、一人ひとりに応じて決め、基本的な生活習慣を維持できるようにしてきました。計画は家族とも相談して決めるので、家の人の生活習慣の意識も向上し、休み明けの学校生活にも大きな変化なく過ごせる子どもが多くなりました。</p> <p>⑥活字を読む習慣を身につけ、文字が生み出す世界の魅力を知ると同時に、登校あるいは部活と「動」であった生徒が授業前に向けて「静」の姿勢をつくる時間と位置付けることを目的に、始業前に「朝読書」を実施しています。</p> <p>また、地域のボランティアによる「読み聞かせ」を各学年年間8回実施しています。全国学力・学習状況調査の結果及び学校図書館における「生徒一人あたりの年間図書館貸出冊数」は、図のとおりです。このことから、朝読書を除いて全く読書をしない生徒が27.2%と年々増加していることから個別の読書啓発指導を進める必要があると感じています。</p>




<p>⑦学校自己評価アンケートにおいては、「授業の内容はおおよそ理解できる」が、生徒アンケートでは、前後期とも平成 27 年度調査以降、最高の数値を示す一方、保護者アンケートでは平成 29 年度より若干下回りました。</p>	 <table border="1"> <caption>【学校自己評価アンケート「授業の内容は理解できる」】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>生徒 (%)</th> <th>保護者 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>75.1</td> <td>49.8</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>71.0</td> <td>42.7</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>75.5</td> <td>41.1</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>76.9</td> <td>53.6</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>78.0</td> <td>51.7</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>79.9</td> <td>52.5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>83.4</td> <td>50.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>⑧手づくりの調理にこだわり、健康な心と体を育む給食作りに努めています。また、食物アレルギーを持つ児童生徒に対し、要領に基づく対応食を提供しています。今後も安全安心な給食づくりに努めていきたい。</p>	年度	生徒 (%)	保護者 (%)	H27	75.1	49.8	H28	71.0	42.7	H29	75.5	41.1	H30	76.9	53.6	H30	78.0	51.7	H30	79.9	52.5	H30	83.4	50.8
年度	生徒 (%)	保護者 (%)																							
H27	75.1	49.8																							
H28	71.0	42.7																							
H29	75.5	41.1																							
H30	76.9	53.6																							
H30	78.0	51.7																							
H30	79.9	52.5																							
H30	83.4	50.8																							

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 (2) スムーズな統合と新小学校の礎づくり
主な事業 (活動)	①相手への思いやり (小学校) ②統合資料 (小学校) ③開校式、開校記念運動会、開校記念音楽会、いっぴなっ子祭り (小学校)
評価	①A ②A ③A
成果と課題	<p>①子ども同士、保護者同士、学校職員同士等で、物事を決めていく際、旧小学校でのやり方として一方的に主張することなく進めることができました。また互いに聞き話し合いながら物事を決めていくこともできました。これらのことから統合がスムーズにできました。</p> <p>②統合後の生活のことを考え統合準備の段階で細かいところまで配慮されていました。その結果、実際の生活を送る時、決定に困る時も方向を示すことができ、指導する上でも混乱することがありませんでした。</p> <p>③開校式等記念事業をとおして、一緒に学校生活を送れる見通しや自信となりました。また、一緒に活動する姿を見ていただき、旧小学校区の子どもたちが一つになったことを地域の方々にも認めていただくことができました。引き続き両校の歴史や住民の思いを大事にしながら、新たな統合小学校を創造していきたい。</p> 

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 (3) 子どもの学びの機会と質の向上の保障
主な事業 (活動)	①奨学資金貸付制度 (総務教育係) ②就学援助費、就学奨励費 (総務教育係)
評価	①B ②B
成果と課題	<p>①平成 27 年度制度発足以来、平成 30 年度 10 件の申請で 10 件認定し、この 4 年間で 14 件の認定となりました。事務の適正化や会計処理を正確に行うため、システムの導入を行い、今後は制度の周知をさらに図っていきたい。</p> <p>②経済的理由などからの理由や特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に、学用品などの費用を扶助していますが、特に新入学児童生徒学用品購入については、入学前の 2 月に支給しています。</p>

方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 (4) だれにでも気持ちよくあいさつができる子どもの育成
主な事業(活動)	①あいさつ運動(小学校) ②気持ちよくあいさつができるための活動(中学校)
評価	①A ②B
成果と課題	<p>①毎朝、児童会代表委員会の子どもたちが玄関で、登校して来る子どもにあいさつを行っています。また、職員室にも来室してあいさつを毎日行い、習慣化でき、伝統となりつつあります。また、子ども安全見守り隊の皆さんに登下校時の要所に立っていただき、子どもたちの安全を見守りつつ、あいさつなどの声かけ運動を行っていただきました。子どもたちから感謝の言葉や明るく元気なあいさつの声が伝えられるように指導を継続していきたい。</p>  <p>②学校自己評価の質問で「気持ちの良い挨拶ができています」では、生徒アンケートで、平成30年度前期(7月)において過去最高の数値(91.7%)、保護者アンケートでも、平成30年度後期(2月)において過去最高の数値(70.0%)を記録するなど、着実に、気持ちの良いあいさつが位置付いてきています。</p> <p>また、平成30年7月11日飯綱中学校生徒会役員が、朝の登校時間に小学校2校へ行き、初めての「小中連携あいさつ運動」を実施しました。児童・生徒とも、嬉しそうな笑顔であいさつを交わし合う姿が印象的でした。来年度以降も継続して取り組みたい活動です。</p> 

方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう 1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 (5) 保小連携、小中連携、小学校相互の連携
主な事業(活動)	①中学校での体験授業(小学校) ②北部高校との交流(小学校) ③保小連絡会、小中連絡会、移行支援会議等(小学校) ④小中連絡会等による中1ギャップの打開(中学校) ⑤小学校との連携(中学校)
評価	①A ②A ③B ④B ⑤A
成果と課題	<p>①6年生が中学校で体験授業を行うことにより、中学校の雰囲気を体感することができました。</p>  <p>②北部高校の生徒と4,5,6年生が、書道(習字)をとおして交流することができました。普段とは異なった雰囲気の中で、交流しながら字を書くことができ、異年齢の人とコミュニケーションをとるきっかけとなりました。</p> <p>③各種連絡会は、園児、児童、生徒の情報交換及び情報共有の機会として有効に機能しており、学級編制や支援体制整備に役立っています。保・小・中の連携の場としては、最も有効な場として今後も有効活用していきたい。</p>

	<p>④年 4 回の小中連絡会と特別支援学級担任の小中学校授業参観を通して、進学時の不適応を未然に防いでいます。</p> <p>⑤『仲間との学び合いを通して、主体的に学びに向かう児童生徒の姿を求めて』を研究テーマに掲げ、飯綱中学校（6月27日）と牟礼小学校（11月30日）において、町内小中学校教職員による授業研究会を実施しました。児童・生徒の学びの姿から、指導の方向性について共通認識を図ることができました。</p>
--	---

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	<p>生きる力を育み、ふるさとを愛し、人を思いやる子どもを育てよう</p> <p>1 確かな学力を身につけ、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進</p> <p>（6）教職員の力量向上と働き方改革</p>
主な事業（活動）	<p>①学級集団の充実のための研修実施（小学校）</p> <p>②教職員対象研修会の実施（小学校・中学校）</p> <p>③一人一公開授業（小学校）</p> <p>④時間外勤務時間の縮減と子どもと向き合う時間の確保（小学校）</p> <p>⑤現代的な教育課題を内容に据えた職員研修の実施（中学校）</p> <p>⑥『飯綱中 わたしたちの働き方改革』～教職員の多忙化・負担軽減～（中学校）</p>
評価	①A ②A ③B ④B ⑤A ⑥A
成果と課題	<p>①全国学力学習状況調査・NRT の分析、全校児童の児童理解の研修を継続して行い、一人ひとりを大切にしたい授業、居場所のある学級集団を目指してきました。子どもが不登校や集団不適応を起こさずに学級経営を行うことができました。</p> <p>②小学校では、非違行為防止のため、職員会議で様々な事例を基に、話し合いや熟議などの研修を行い、非違行為防止への強い気持ちを持つことができました。また中学校では、非違行為根絶に向けた定期的な研修会として毎月職員研修を実施しました。研修を実施する中で、非違行為に対する再認識と根絶を確認しました。</p> <p>③教員一人ひとりが自己課題をもって授業改善に取り組む課程で、年に1回は授業を公開し、お互いが学び合う研修の機会とすることができました。今後も教師の力量の向上のため継続していきたい。</p> <p>④職員の時間外勤務を縮減できました。特に子育て中の職員には、声がけし帰宅を促してきました。また、タブレット等での勤務時間管理ソフトにより、一人ひとりの出勤退勤時間の管理が容易になりました。小学校統合1年目で新たに作り出すことや見通しがもちにくい業務等もあり、多忙感は否めませんでした。今後行事や業務内容の精選を進めて、子どもたちと直接向き合う時間を確保できるような時間を作り出していきたい。</p> <p>⑤「日常の授業改善」「いじめ・不登校の予防」「発達障がい理解と支援」等、今日の教育課題の改善等に資するため、本校教職員を対象に、各種研修会・講演会・講習会等を年7回実施し、本校教職員の資質向上を図りました。</p>

<p>⑥平成 30 年 12 月調査において、県教委が示す「1 人当たり 1 ヶ月時間外平均勤務時間 45 時間以内」を初めてクリアしました。しかし、中には 80 時間を超える職員がおり、勤務時間を意識した働き方を意識すると共に、以下 2 点について徹底するようにしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年主任は、学年職員の時間外勤務状況を把握し、学年の仕事が集中しないように配慮。 ・平日の 21 時以降に残業をする場合は、帰宅予定時刻を教頭に申し出る。 	<table border="1" style="margin: auto;"> <caption>【時間外勤務調査 12 月結果】</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>本校</th> <th>県中学</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>63.54</td> <td>59.20</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>55.82</td> <td>57.43</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>44.23</td> <td>51.89</td> </tr> </tbody> </table>	年度	本校	県中学	H28	63.54	59.20	H29	55.82	57.43	H30	44.23	51.89
年度	本校	県中学											
H28	63.54	59.20											
H29	55.82	57.43											
H30	44.23	51.89											


方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	2 グローバル化社会への対応 (1) ICT の活用
主な事業 (活動)	①学校の ICT 環境の整備と活用の実態 (小学校・中学校) ②小中学校情報システム費 (総務教育係)
評価	①B ②B
成果と課題	<p>①平成 30 年度に PC 教室の PC と教師用校務 PC の更新、及び普通教室用タブレット型 PC の更新ができましたが、PC 教室では、学習活動サポートソフトまで整備できず、また普通教室用タブレット型 PC は、校内の Wi-Fi 環境が未整備のため、有効活用されていないのが現状です。</p> <p>中学の新学習指導要領においては、「情報活用能力が、言語能力、問題発見・解決能力等と同様に『学習の基盤となる資質・能力』と位置づけられ、『各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図る』ことが明記されている中、今後 ICT 環境の整備の充実が課題となっています。</p> <p>②小中学校の教育用パソコンの更新とタブレットの導入を行い、ICT 教育の充実を図っています。しかし、タブレットについては、学級の児童生徒数分の確保が現状できていないことから、今後導入を進め ICT 教育の一層の充実を図っていききたい。</p> <p>小学校：パソコン 65 台更新 タブレット 24 台導入 中学校：パソコン 35 台更新 タブレット 22 台導入</p>

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	2 グローバル化社会への対応 (2) アクティブ・ラーニングの実践
主な事業 (活動)	①協働的な学びの探求 (小学校) ②ペア学習やグループ学習による学習 (中学校) ③自ら課題を立て対話により深め・広げ学習にも生かす (中学校)
評価	①B ②A ③A
成果と課題	①課題やゴールのイメージを明確に示すことと、グループ学習の機会を多く取り入れるようにしたことで、個人追究の苦手な子どもたちが、意欲的に課題に向かう姿が見られるようになってきました。

<p>②アクティブ・ラーニング（主体的で、対話的で、深い学び）の実践にあたり、中学校では「学び合い」を大切に、ペアやグループによる学習形態を行ってきました。学校自己評価アンケート「グループ活動など友だちと一緒に学習する授業はわかりやすい」も高い評価を得ています。</p> <p>③全国学力・学習状況等調査生徒質問によると、自分で課題を立てて取り組み、話し合いを通して自分の考えを深めたり、広げたりする姿が県や全国平均より高く、また、授業での学びを他の学習にいかそうとする姿も高くなっています。</p>	<p style="text-align: center;">質問「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>調査対象</th> <th>あてはまる</th> <th>どちらかと言えば当てはまる</th> <th>どちらかと言えば当てはまらない</th> <th>当てはまらない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国</td> <td>26.9</td> <td>48.0</td> <td>20.6</td> <td>4.4</td> </tr> <tr> <td>長野県</td> <td>24.7</td> <td>50.6</td> <td>21.3</td> <td>3.3</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>24.7</td> <td>60.5</td> <td>12.2</td> <td>3.5</td> </tr> </tbody> </table>	調査対象	あてはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない	全国	26.9	48.0	20.6	4.4	長野県	24.7	50.6	21.3	3.3	本校	24.7	60.5	12.2	3.5
調査対象	あてはまる	どちらかと言えば当てはまる	どちらかと言えば当てはまらない	当てはまらない																	
全国	26.9	48.0	20.6	4.4																	
長野県	24.7	50.6	21.3	3.3																	
本校	24.7	60.5	12.2	3.5																	

方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進												
目標	2 グローバル化社会への対応 (3) 次期学習指導要領への的確な対応												
主な事業（活動）	①新学習指導要領の実施に向けて（小学校） ②英語力向上のために、町費で外国語支援講師を配置（小学校） ③実用英語技能検定3級以上合格者数（中学校） ④相手意識を持った発表（中学校）												
評価	①A ②A ③A ④B												
成果と課題	<p>①新学習指導要領の外国語活動や特別の教科道徳に関わる内容理解、評価、時間の確保について考えることができました。また、授業においても「ねらい」によって「考える過程」を大切にするよう意識してきました。</p> <p>②令和2年度からの新学習指導要領の外国語活動に向けて、平成30年度から小学校3,4年生は年間35単位時間、5,6年生は年間70単位時間設定しました。しかし、担任がメインとなって外国語の授業を進めるには抵抗感をもつ教員が多く、担任の支援のため、ALTを各小中学校に各1名配置し授業にあたることは大変力になっています。子どもたちもネイティブな英語に触れ、親しみ楽しむ姿が見られています。今後は、学級担任の英語授業の指導方法や英語専科の確保が課題となってきます。</p> <p>③平成29年度より、英語検定を受検する生徒に町の補助金が利用できるようになりました。平成30年度は、3級以上合格者が28名と、平成29年度の39名には及びませんでした。英検にチャレンジしようとする生徒が多くなってきました。</p> <div style="text-align: right;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>3級</th> <th>準2級</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28</td> <td>3</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>5</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>【英検3級以上取得者数推移】</p> </div> <p>④平成29年度全国学力学習調査によれな「発表の場面では、発表する前に内容や順序を考えている」が、全国並びに県平均を下回ったことを受け、授業にそれらの場面を意識的につくり出したことで、平成30年度学校自己評価アンケートによれば、80.7%と前年度より高い結果を示すようになりました。</p>	年度	3級	準2級	H28	3	14	H29	5	33	H30	1	25
年度	3級	準2級											
H28	3	14											
H29	5	33											
H30	1	25											

方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	3 ふるさとを愛する心が育つ教育の推進 (1) 体験型学習(自然・農業・食育・歴史文化など)やキャリア教育の充実
主な事業(活動)	①茶道学習(小学校) ②自然・農業体験学習(小学校) ③総合的な学習の時間において、体験型学習の充実を図る(中学校)
評価	①A ②A ③A
成果と課題	<p>①校地内にある茶室を使い、不言会の皆さんにご指導いただきながら、全校児童が茶道を通して「和敬静寂」の精神に触れることで、先人達の考えや気持ちを知り、思いやりの心や人を敬う心が育ってきています。</p>  <p>②市街地の学校では体験できないりんご栽培体験学習や米作り体験学習は充実しています。町を代表する農産物としてこれからも体験学習を大事にしていきたい。</p>  <p>③・1年 防災教育 東日本大震災で被災された方々の心情に触れ、地域の自然災害を見つめ、地域の防災のためにどのような取り組みをすればよいのか、防災を視点に地域のフィールドワークを通して、「デジタル安心安全マップ」を作成しました。このマップは、保護者にも周知し、マップ作成により地域の良さや課題について考えるきっかけとなりました。</p>  <p>・2年 職場体験学習 生徒が事業所などの職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験したり、働く人々と接したりすることで、自分の生き方を見つめ直すことを目的に行っています。 平成30年度協力事業所を「おらほの学校応援団 事業所」に認定することで、事業所には“地域貢献におけるステイタス”を得るようにしました。また、来年度以降、キャリア教育の充実を図るため、2日間実施する予定としています。</p>  <p>・3年 起業体験学習 町のイベント「i ママフェス」への出店に向け、販売予定のサービスや商品のアイデアを生徒で出し合い、事業計画を立て、プレゼンを通して株主から株式を買っていただき、実際の販売から株主総会にて振り返りを行う模擬株式会社を起業する学習を実施しました。学習をとおして株式の仕組みや物を売る苦勞と喜びを感じることができました。</p> 

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	4 学校・家庭・地域の連携と協働の推進 (1) 地域人材バンク (おらほの学校応援団) の整備と飯綱町コミュニティスクール
主な事業 (活動)	①外部講師、出前講座等 (小学校) ②地域人材バンクの整備 (おらほの学校応援団) (中学校) ③飯綱町コミュニティスクールの発足 (総務教育係)
評価	①A ②A ③A
成果と課題	<p>①おらほの学校応援団は、体験型授業や地域の豊かな題材を学ぶ上において、多大な支援をいただいています。活動への相談には親身に対応していただき、ほぼ希望する活動が実現できる環境を整えていただいています。今後も引き続き大いに活用させていただきたい。</p> <p>②学校支援ボランティアを募集するとともに、学校支援ボランティアが来校の際には、寛ぎの場となるメモリアル・ボランティアルームを設置しています。また、生徒が地域に出かけることで、地域の方々と懇意になり、学校支援ボランティアとして来校していただくよう、各学年の総合的な学習の時間では地域をフィールドにした体験型学習を展開しました。さらに、来年度は、飯綱町いきいきサロン交流学習の実施を目指して社会福祉協議会と連絡調整を進めたい。今後も教育委員会コーディネーター、教頭、学年主任による町コミュニティスクール連絡会を週1回設けて、学年行事等に必要な人材の確保や事業所等との連絡調整を図りました。</p> <p>③平成 30 年度から飯綱町コミュニティスクール事業が発足し、その中に地域住民との協働事業として、おらほの応援団を組織し農体験や郷土料理の学習の支援の実施しました。今後は、飯綱町コミュニティスクールの中で、教育ファーム事業を位置づけ、学校・家庭・地域の連携と協働の推進を図っていききたい。 飯綱町コミュニティスクール 各学校 3 回実施 おらほの応援団による小中学校支援 延べ 96 回 (主なもの:りんごや米作りの農業体験支援、郷土料理体験支援など)</p> 

方針 1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	4 学校・家庭・地域の連携と協働の推進 (2) 健康づくり週間・手づくり弁当の日、ノーメディアデーの推進
主な事業 (活動)	①健康づくり週間の実施 (小学校・中学校) ②お弁当の日 (小学校・中学校) ③ノーメディアデーの実施 (中学校・生涯学習係)
評価	①A ②A ③B
成果と課題	<p>①小学校では、家庭に協力を呼びかけ、睡眠時間・食事の内容・運動の時間・メディア等自分の生活の見直しを行いました。各家庭も生活を見直すきっかけになりました。なお、趣旨やねらいを意識した取り組みがみられましたが、一過性にならないよう継続的な取り組みにつながる取り組みを今後心がけたい。 また中学校では、生活づくりカードを実施、食事、睡眠、メディア等の項目ごと視覚的に分かりやすく、「カードを見ることで、子どもの生活習慣を把握することができてよい」というご意見をいただきました。特に、「就寝時刻の指導について 12 時過ぎの生徒が何人かいたので、担任として家庭と協力して改善を図りたい」</p>

	<p>という感想もいただき、健康づくり週間を通して、学校と家庭が連携して子どもたちの生活習慣を振り返るきっかけにつながりました。</p> <p>②小学校では、お弁当の日を設け、学年に応じて目標を決めながら、自分のお弁当作りを行いました。家族への感謝の気持ちを強く持つとともに、食に関して興味関心が高まりました。</p> <p>中学校では、食に関する関心や意欲を高め、感謝の心を育み食に関する実践力を養うことを目的に、2,3年生は5月14日、1年生は2月4日に実施しました。授業でも、栄養バランスや作るときのポイントを学習したり、調理実習で実際に調理したりしてお弁当の献立を考えました。当日は、自分が作ったお弁当を披露し、お互いのお弁当を見合いました。今回の『手作りお弁当の日』で、実際に自分でお弁当を作ったことで達成感や満足感を感じられたという生徒も多く、また同時に、普段作ってくださっているお家の方への感謝の気持ちを持つことができました。</p> <p>③年3回(6月26日(火)、12月13日(木)、2月12日(火))のノーメディアデーを実施するとともに、メディアとのつき合い方について学級指導を行いました。さらに、6月28日には、独立行政法人国立病院機構仙台医療センターの田澤雄作先生を講師にお招きし、「メディアにむしばまれる子どもたち」と題して、親子講演会を実施しました。今後も、子育て世代の保護者の皆さんにこの取り組みに対する理解をより深めていきたい。</p>
--	---



方針1	個性を生かし共に学び合う学校教育の推進
目標	4 学校・家庭・地域の連携と協働の推進 (3) 家庭学習の手引きの活用
主な事業(活動)	①家庭学習の手引き活用(小学校) ②学習の手引きの改訂と利用(中学校) ③家庭学習表の改善(中学校)
評価	①A ②B ③B
成果と課題	<p>①職員間での意識の統一を行った上で、年度初めに児童と家庭に向けて「手引き」を配布し参観日の保護者懇談会で保護者に説明をしたことから、年間通して手引きにそって家庭学習を出すことができました。しかし、年度末に、保護者や学校職員から意見を聞くことができませんでした。今後、意見を聞く等しながら活用していきたい。また、家庭学習の習慣は概ね良好な状況ですが、時間や量だけでなく内容や質を意識した取り組みを今後行っていきたい。</p> <p>②授業への心構え、家庭学習の取り組み方、テストの受け方等を示した「学習の手引き」について、学力向上委員会を中心に各教科会等で検討・改訂し、全校生徒に配付しガイダンスを行いました。教職員が共通認識で指導にあたり、生徒が学習習慣を身につけたりする一助となりました。今後も継続するとともに、必要に応じて改善を図りたい。</p> <p>③自ら計画し学習に取り組む生徒の育成を目指した「家庭学習計画表」は、振り返りシートを用いた自己評価が記入できるようになっています。昨年度まで、学校自己評価アンケートの家庭学習に関する項目は、生徒、保護者とも芳しくなく、本年度、週はじめの日の清掃をカットし、個別相談や学習計画を立てる mini e-plan を実施してきました。今後も、家庭学習が習慣化されていない生徒への「個別指導」や「計画作成における個別支援(質、量の個別化)」を検討していきたい。</p>

方針2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり (1) 乳幼児期からの基本的な生活習慣の取得と心身の健康の促進
主な事業(活動)	①乳幼児期における支援
評価	①B
成果と課題	①乳幼児期における支援としては、次のことを実施してきました。 ・乳幼児健診(1歳半、3歳)後のフォロー教室による継続支援(毎月1回) ・発達相談員による遊びを通じた発達を促す助言と相談 ・就園前までの子どもの様子を関係機関等で情報共有し、成長に応じた切れ目のない支援を実施 このようなことを実施する中で、発達過程での心身の状況を把握し、子どもと親が共に成長していけるようそれぞれのケースに寄り添った支援を今後も続けていきます。

方針2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり (2) 未満児・障がい児保育の充実
主な事業(活動)	①未満児・障がい児保育の充実(保育園) ②発達支援・5歳児相談事業(総務教育係)
評価	①B ②B
成果と課題	①3歳未満児の入所については、平成30年度3園で62名を受入れました。また、障がい児保育については、加配保育士や補助保育士を配置し支援を行いました。それぞれの子どもの発達過程や心身の状態を把握し理解しながら、障がい児が他の子どもとの関わりの中で共に成長できるよう保育することができました。近年、障がい児と診断された幼児以外にも配慮の必要な子どもが増えつつあり、加配が必要なケースが増加してきています。なお、未満児や障がい児保育では、保育士の確保が課題となっています。 ②はぐくみサポート事業として発達障がい等、特別な配慮を必要とする子どもたちの早期発見・早期支援と一貫性・継続性のあるサポートを行うため、障がい者支援の専門機関であるNPO法人SUNに委託し、保育園訪問支援(12回)、5歳児相談事業(7回)などを実施しました。今後も保護者に寄り添い、関係機関と連携して継続した支援をめざし、保護者への発達障がい等に対する理解や意識の啓発をさらに図っていきます。

方針2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり (3) 子ども読書活動(ファースト・セカンド・サードブック)による情操教育の推進
主な事業(活動)	①4ヶ月、3歳児、6歳(入学前)幼児への図書への贈呈
評価	①B
成果と課題	①それぞれの発達時期にあった絵本を贈呈しており、今年度も計画どおり実施でき、読書の啓発に寄与できました。お子さんに本を読んであげることにより、声を感じ愛情を感じとっていきます。絵本をきっかけに親子のきずなを深めてほしいと願っています。

方針2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり (4) 安全・安心な放課後児童クラブの運営
主な事業(活動)	①5つの児童クラブの運営(こども保育係)
評価	①B
成果と課題	①平成30年度5カ所の児童クラブでは延べ31,553名を受入れました。 児童クラブの役割としては、保護者の就労支援や子ども達の安全な遊び場の提供等ますます重要になってきていますが、指導員の確保が課題となっているほか、近年子ども達への重大な事件や事故が発生していることから、危機管理体制構築が必要で早急に検討していきたい。

方針2	子育て・子育て環境の充実																				
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 1 子どもが生き生きと育つ環境づくり (5) 児童虐待の未然防止と早期の対応																				
主な事業(活動)	①関係機関等との連携により未然防止と早期発見(子育て支援係)																				
評価	①B																				
成果と課題	<p>①妊娠・出産・子育て期の家庭では、様々な悩みを抱え、周囲の支えを必要としている場合があります。こうした家庭に適切な支援ができずに痛ましい児童虐待に至ってしまうことのないよう、教育委員会内に相談・通報窓口を設けています。</p> <p>主な実施事業としては…</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健師による出生時訪問での児童虐待防止啓発(パンフレット説明)と児童虐待防止月間での啓発(広報) 要保護児童地域対策協議会における実務者間での個別ケースの情報共有 <table border="1" data-bbox="965 1086 1449 1249"> <thead> <tr> <th></th> <th>対応件数</th> <th>継続件数</th> <th>終結件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>関係者ですべてのケースの情報を共有し連携を図っています。さらに、個別のケースでは、検討会議をその都度開催し、関係機関と連携を密にしチームで対応しています。しかしながら、それぞれの家庭が抱える複合的かつ様々な背景があるためすぐには終結になりませんが、それぞれのケースに寄り添いながら、より適切な支援ができるよう努めます。</p>		対応件数	継続件数	終結件数	H27	5	5	0	H28	5	5	0	H29	12	10	2	H30	13	9	4
	対応件数	継続件数	終結件数																		
H27	5	5	0																		
H28	5	5	0																		
H29	12	10	2																		
H30	13	9	4																		

方針2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 2 楽しく子どもを育てられる環境づくり (1) 子育て支援センター事業の充実
主な事業(活動)	①子育て支援センター事業(子育て支援係) ②新たな子育て支援センター建設に向けて(子育て支援係)
評価	①A ②B
成果と課題	<p>①子育て支援センターでの主な実施事業は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> なかよし広場や親子ふれあい教室による定期的な親子イベントの開催 おひさま広場(保育園開放)による就園準備支援と保育士との育児相談 発達、発育、育児、悩みごと等の相談・助言 父親の積極的な育児参加への促しと、家族力を向上させる事業の企画・運営 <p>子育て相談では、発達・発育に関する相談が増加しており、子育て支援センターでの活動においては、発達障害等の兆候を見逃さないように努め、支援の検討</p>

	<p>が必要と思われる場合は、保健師と連携し進めています。</p> <p>また、イクメンパパの会を開催し、母親の育児不安解消や軽減のためにも、父親が育児を楽しみ積極的に育児に参加できる環境づくりを目的に 2 回開催しました。</p> <p>②新たな子育て支援センター建設に向けて、利用者を中心に建設検討委員会を立ち上げ、検討を始めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員構成：子育て支援センター利用者 4 名、ワークセンター利用者 3 名、町内保育園長 1 名、町内保健師 1 名、長野県立大学教授 1 名 計 10 名 ・委員会回数：3 回
--	--

方針 2	子育て・子育て環境の充実
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 2 楽しく子どもを育てられる環境づくり (2) ファミリー・サポート・センター事業の充実
主な事業 (活動)	①教育支援会議 (小学校) ②ファミリー・サポート・センター事業 (子育て支援係)
評価	①A ②B
成果と課題	<p>①個々の子どもの状況から、長野養護学校、NPO法人SUNなどの関係機関と連携し、支援会議を行いました。子どもだけでなく、保護者にも寄り添い、支援を行うことができました。</p> <p>②子育てを地域で助け合う会員組織として運営し、次の事業を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知と提供会員の勧誘 ・依頼会員と提供会員とのマッチング <p>平成 30 年度は、依頼会員 20 名、提供会員 16 名、両方会員 1 名となっており、利用状況は、託児で 2 回、送迎で 23 回となっています。</p> <p>課題としては、提供会員の高齢化やライフスタイルの変化などにより、会員確保が困難になってきています。また、依頼内容は「送迎」が多くを占めており、「託児」のニーズはあるものの敬遠される傾向があります。新しい子育て支援センターにおいては、本事業の拠点施設となるよう検討します。</p>


方針 2	子育て・子育て環境の充実														
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 3 子育てをしている女性への支援 (1) 子育て世代の就労支援														
主な事業 (活動)	ワークセンター (i ワーク) 事業 (子育て支援係)														
評価	①A														
成果と課題	<p>①2 年目となるワークセンター事業は、スキルアップセミナーは 6 講座 19 回の開催とワークスペースの利用、また自立したワーキンググループ (テーブル起こし) が立ち上がり、仕事を請け負うことができました。イベントとしては、第 2 回 i ママフェスタの開催やお仕事マッチングイベントも開催し、子育て世代の女性にとってよりよい支援となるよう今後も継続的に実施していきたい。</p> <p>課題としては、町内外企業とワークセンター利用者との就労がマッチングできるよう PR 方法など検討していきたい。</p> <table border="1" data-bbox="1045 1765 1449 1937"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>利用延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談室</td> <td>企業</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>求職者</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ワークスペース</td> <td>968</td> </tr> <tr> <td colspan="2">託児スペース</td> <td>745</td> </tr> </tbody> </table>			利用延べ人数	相談室	企業	6	求職者	45	ワークスペース		968	託児スペース		745
		利用延べ人数													
相談室	企業	6													
	求職者	45													
ワークスペース		968													
託児スペース		745													

方針 2	子育て・子育て環境の充実															
目標	豊かな自然の中で、子どもたちの成長をみんなで支え合おう 3 子育てをしている女性への支援 (2) 病後児保育事業による子育て支援の充実															
主な事業 (活動)	①「病後児保育室はぐくみ」の運営 (子育て支援係)															
評価	①B															
成果と課題	<p>①病後児保育事業については、保護者が利用したい時に直ぐに対応できるように、急な申込みにもできる限り対応するよう努めています。 「どうしても仕事が休めなかったので、とても助かった」との声が寄せられました。利用者にもっと病後児保育室を知ってもらえるようPRしていきたい。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>登録申込児数</th> <th>予約日数</th> <th>利用日数</th> <th>利用児数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>45人</td> <td>4日</td> <td>2日</td> <td>実1人・延2人</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>19人</td> <td>7日</td> <td>6日</td> <td>実5人・延8人</td> </tr> </tbody> </table>		登録申込児数	予約日数	利用日数	利用児数	H29	45人	4日	2日	実1人・延2人	H30	19人	7日	6日	実5人・延8人
	登録申込児数	予約日数	利用日数	利用児数												
H29	45人	4日	2日	実1人・延2人												
H30	19人	7日	6日	実5人・延8人												

方針 3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 1 多様な活動機会の創出 (1) スポーツ活動や芸術文化活動の機会の創出
主な事業 (活動)	①北部広域・鳥居川水系中学校部活動検討委員会の開催 (中学校・生涯学習係) ②子ども達の文化・スポーツ活動 (生涯学習係)
評価	①A ②B
成果と課題	<p>①平成 30 年度の本校在籍生徒数は 247 名で、10 年前 (平成 21 年) は 358 名だったことを考えると、少子・人口減少社会に対応した学校づくりが喫緊の課題となっていることがよく分かります。本校の部活動においては、平成 26 年度からサッカーと剣道を社会体育に移行するほか、男女別の卓球部を統合する等の対応をしてきましたが、依然、部員数は減少の一途を辿っています。そこで、学校・地域のスポーツ文化を絶やさないために、平成 29 年度より北部広域・鳥居川水系中学校部活動検討委員会を設置し、近隣の信濃小中学校との合同部活動とそのあり方について検討してきました。その結果、新人戦には、4つの部活動で信濃小中学校との合同チームを編成し大会参加ができました。少子化及びスポーツの多様化による連携活動となりましたが、今後は指導者育成も必要となっていきます。</p> <p>②小中学生を対象に地域の方のもとで文化・スポーツ活動を通じて自己を成長させ次のステップへの架け橋づくりのため活動しています。文化活動は茶道等 7 教室、スポーツは野球等 10 種目を行い、文化・スポーツに親しみながら将来世界に羽ばたくようなアスリート等期待しています。</p>

方針 3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 1 多様な活動機会の創出 (2) 地域団体が企画運営するスポーツ・芸術文化活動への支援
主な事業 (活動)	①スポーツ協会教室運営等及び文化活動への補助 (生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①町スポーツ協会及びいづなスポーツクラブの団体へ事業運営や大会等に対して補助を行い、各スポーツ団体への支援を行っています。また、文化活動については、町文化協会の舞台や展示発表等活動への支援とその他芸術文化団体 (飯綱五岳会、飯綱菊花会) の活動への支援を行っています。今後も、スポーツ・芸術文化団体への支援を行い、町のスポーツ・芸術文化活動の充実を目指します。

方針3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 1 多様な活動機会の創出 (3) スポーツ施設の充実
主な事業(活動)	①各種大会等における社会体育施設及び学校施設の開放(生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①町の社会体育施設及び学校施設の開放をしながら町民のスポーツ等の場を提供していきます。老朽化に伴う施設の修繕等を実施し利用者に不便をかけることなく安全に利用してもらうように心がけています。今後も町民が使いやすいよう施設の維持管理を行いながらスポーツ活動の拠点として利用できるように努めていきます。

方針3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 2 文化の保存・継承・活用 (1) 豊かな農産物や食文化への理解の促進
主な事業(活動)	①郷土料理体験(小学校) ②関係機関と連携した食育推進連携事業(生涯学習係) ③食育・旬の地域食材を用いた地産地消の推進(学校給食係)
評価	①A ②B ③B
成果と課題	<p>①だんごの会のみなさんに協力していただき、おやき・田植え料理などを教えていただき、有意義な郷土の体験学習と食文化への学習となりました。今後も飯綱町の郷土料理の調理体験を通して郷土を愛する心を育てていきたい。</p>  <p>②関係機関で構成しています飯綱町食育推進会議の事業として、町内食育団体と連携し子どもから高齢者に対しての食育活動を実施しています。子ども達の食育としては、いづなっ子クラブの調理クラブにおいて食育をとおして郷土料理や伝統食を行っており、今後も継続してまいります。</p> <p>③地域食材については、JAや直売所等を通じて旬の町内産を使用しています。 【主な町内産100%食材】 (飯綱米、アスパラガス、さくらんぼ、梨、ブルーベリー、りんご、しめじ、味噌) 今後もより多くの町内産食材を使用していきたい。また、食育に関しては、現在は主に献立表による食育と調理場職員による給食時に学校訪問等を行っていますが、今後メール配信システムなどを活用した食育や児童生徒による調理場見学を含めた食育の充実に努め、食育フォーラムも検討していきたい。</p>

方針3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 2 文化の保存・継承・活用 (2) 文化財の保存、継承、活用の充実
主な事業(活動)	①文化財の調査、指定、保護、活用(生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①平成30年度の文化財保護事業としては、苔翁寺山門・仁王像の大規模修復事業が着手され注目されています。来年度以降の事業完了の予定となっていますが、完了後においては、町民対象の見学会等を計画しながら町の文化財保護の取り組みの紹介と今後の文化財保護意識の啓発に努めたい。

方針3	スポーツ・芸術・文化活動の充実
目標	健全な心と体を育てよう 2 文化の保存・継承・活用 (3) 文化遺産や芸術・文化に触れ、ふるさと愛を育む
主な事業(活動)	①ふるさと学習の実施(小学校) ②歴史ふれあい館の展示、調査、教育普及などの機能充実(生涯学習係)
評価	①A ②B
成果と課題	①茶室での茶室学習、普光寺・芋川・倉井の3用水学習で、地域の人のこれまでの工夫や努力を知ることができ、ここで暮らした人たちの思いや願いを考えることができました。 ②平成30年度歴史ふれあい館は、「特別展・赤塩焼」を中心に「赤塩焼復活プロジェクト」と連携して活動を実施してきました。常設展示改善は引き続き課題となっていますが、来年度以降に検討したい。

方針4	自ら学び、共に学び、自己を高める
目標	学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう 1 多様な学習機会の創出 (1) 生涯学習(講座・教室)の充実
主な事業(活動)	①いいづな大学・いいづな教室の開催(生涯学習係) ②中学校講堂開放及び講座の実施(生涯学習係)
評価	①B ②B
成果と課題	①平成30年度いいづな大学は、開講後13講座を開催し学生数は39名で1年間開催しました。学生数は増加しておりますが、新たな学生の参加を促していきたい。また、いいづな教室は、18教室を開催し250名の受講生により実施しており、今後は、受講生の中から教室の講師ができないか育成に努めたい。 ②中学校講堂開放については、出初式、成人式、講座等町主催行事において積極的に利用促進を図っています。また文化協会のイベント等文化活動団体へのPRによりここ数年利用が増えてきています。

方針4	自ら学び、共に学び、自己を高める
目標	学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう 1 多様な学習機会の創出 (2) 生涯学習の成果を生かす機会(発表会)の実現
主な事業(活動)	①いいづな教室受講者等による発表(生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①いいづな教室での舞台及び展示の成果は、町文化協会まつりで発表を行い1年間の成果を生かす場として行っており受講生の自信にもつながっております。教室での成果を発表するとともに町文化協会の発表を見ることも一つの刺激となり、今後の教室へ生かす場ともなっています。

方針 4	自ら学び、共に学び、自己を高める
目標	学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう 1 多様な学習機会の創出 (3) 図書館機能の充実
主な事業 (活動)	①図書館機能の連携 (生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①町の図書館は、公民館図書室と中学校開放施設による図書館がありますが、両施設とも連携を図っておりどちらの施設でも図書の貸し借りは出来る状況で、共に新着図書の案内をする等利用者が増えてきています。特に学生の利用が増えており、学習活動に利用されています。今後は、企画本の配置を工夫するなどして図書館の充実を図っていきたい。また、長野県立図書館との相互貸借を行っており、県立図書館の図書も公民館図書室等で借りることができます。

方針 4	自ら学び、共に学び、自己を高める
目標	学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう 2 生涯学習拠点の充実 (1) 地域コミュニティ (公民館活動) の活性化
主な事業 (活動)	①分館活動に際する活動費補助 (生涯学習係)
評価	①B
成果と課題	①町内 27 分館の活動支援として補助金を交付しています。それぞれの分館で創意と工夫により人が集まりやすい機会を作ることにより気軽に話し合えるコミュニケーションの場づくりに努めていただいています。しかし、少子高齢化の進展により、特に本館事業での事業の人 (選手) 集めの負担が増している現状で、今後分館との活動について意見交換を行うなどして分館活動の運営をサポートしていききたい。

方針 4	自ら学び、共に学び、自己を高める
目標	学ぶ楽しさを分かち合い、夢を持ち活動の輪を広げよう 2 生涯学習拠点の充実 (2) 地域学習の充実
主な事業 (活動)	①自然学習 (小学校) ②出前講座の実施 (生涯学習係)
評価	①A ②B
成果と課題	①低学年は、地域の身近な動植物に直接触れたり四季の移ろいを感じたりしながら自然に親しむことができました。また、高学年は、用水・川の学習と登山・キャンプ等の臨地学習や自然体験的学習を通して、郷土に対する知識の幅を広げ、愛着を持つことができました。 ②町企画課で実施しています出前講座のメニューにより分館へ出前講座を実施していますが、好評となっていますので今後も新たなメニューも検討しながら分館での学習に役立てられるよう継続して実施していききたい。



平成 30 年度飯綱町教育委員会点検・評価に関する学識経験者の知見について

寺島 政次 氏(前飯綱町教育委員会 教育長)

方針 1 個性を生かし共に学び合う学校教育の推進

小学校統合 1 年目としては、相手への思いやりや各種統合関連事業によりスムーズな統合となったように思われます。校長先生はじめ各先生方等感謝します。

確かな学力に関しては、小学校においてはわかる授業とドリルの時間や朝の読書、中学校においては学習の理解度等より学力向上に努め、生きる力を育成する教育の推進に努められています。

また、豊かな心を育てるために、気持ちよく挨拶ができる「あいさつ活動」を実施し、中学生の協力もありよい事業だと感じます。今後もこのような事業を継続してほしい。

健やかな体については、お弁当の日を継続して設け食に対する教育を家庭と一緒に学習する等効果が上がっていると思います。給食についても旬な地元食材を使用する等体と食について今後も家庭・学校・給食と連携しながら進めていきたい。

教職員の働き方改革については、それぞれ工夫を凝らす中で時間外勤務を短縮する等今後も継続して実施してほしい。

次期学習指導要領への対応としては、ICT 教育への環境整備と外国語活動の実施に向けて準備を行い、課題については今後解決に向けて進めてほしい。

体験学習については、今年度から発足した「飯綱町コミュニティスクール」の中の「おらほの学校応援団」を十分活用する中で、子供たちの農と食の体験をとおして郷土を愛する心を育むよう努力してほしい。

方針2 子育て・子育て環境の充実

子どもが生き生きと育つ環境づくりとしては、乳幼児健診後のフォロー教室をとおして発達障害等の相談や保育園においては障がい児保育の充実等を実施し、保護者に寄り添った子育て環境の充実に向けて、今後も継続して実施してほしい。

また、それぞれの発達時期にあった絵本を贈呈することにより、本をとおして親子の絆を深めることも大切ですので、今後も継続してほしい。

児童虐待に関しては、関係機関と密接に連携を図り、虐待に至らないように支援を行なっていただきたい。

ワークセンターが2年目を迎えました。今年度は自立したワーキンググループが立ち上がったことは一歩前進したものと思います。ほかにもワーキンググループが立ち上がるよう支援をお願いしたい。

新たな子育て支援センター建設に向けて検討会が立ち上がりました。ワークセンター利用者も交え、利用しやすいセンターになるようハード面とソフト面の両面から検討を重ねてほしい。

方針3 スポーツ・芸術・文化活動の充実

中学校の部活動について、北部広域・鳥居川水系中学校部活動検討委員会を設置し検討を重ねられて、今年度信濃小中学校と合同チームで大会に参加されました。検討の結果が生かされた良いことだと思います。さらに検討を重ね、種目によっては信濃小中学校だけでなく、豊野中学校も検討の中に入れ、少子化に対応した対策を実施してほしい。

町民のスポーツ・芸術・文化活動については、今後もそれぞれの団体での活動を大切にしながら、生涯学習関連の活動の充実も図ってほしい。

地元農産物の利用や食文化の理解について、小学校での郷土料理体験いっぴなっ子クラブの料理教室等子供たちに伝える大切なことですので、今後も継続して実施してほしい。

また、文化財保護に関して、今年度は苔翁寺山門・仁王像の大規模修復事業に着手されました。完成は次年度のことのようですが、完成後は住民に知っていただくことも大切ですので見学会等の検討をお願いしたい。また町内には貴重な文化財が残っているものと思われるので、発掘についても努力をお願いしたい。

方針4 自ら学び、共に学び、自己を高める

生涯学習の充実については、「いっぴな大学」及び「いっぴな教室」の開講により学びの場の提供と趣味を生かした教室への参加により個々の充実を図られていることは大切ですので今後も継続してほしい。

中学校図書室の利用が増加していることは大変喜ばしいことです。増加の内容をよく分析され一層利用されるよう努力をお願いしたい。

公民館活動の分館活動については、地域における住民の交流や融和などで大切な活動になっています。分館ごとに大変な面もあると思いますが、意見交換を行う等サポート体制も検討され一層の活動を期待します。

まとめ

教育委員会は、範囲が広く大変だとは思いますが、子供たちが郷土に誇りをもち、大人になっても郷土が誇れるような地域づくりに向けて教育委員会として何ができるのかいろいろな機会をとおして検討してほしいと思います。また、文部科学省や厚生労働省の施策も見据える中で努力をお願いしたい。

